

SWOT 分析シート

		外部環境分析(需要側)	
		ニーズの増加・市の役割の増大 (成長)機会	ニーズの減少・市の役割の縮小 脅威
		<ul style="list-style-type: none"> ① 自然災害に強い公共交通機関 ② 服務規律の確保 ③ 安全風土の確立 ④ お客さまのニーズの高度化・多様化 ⑤ 誰もが便利で快適に利用できる公共交通機関 ⑥ 健全な経営体質 	
内部要因分析(供給側)	強み	<ul style="list-style-type: none"> 1. 大阪府市統合本部から示された「基本的方向性(案)」 2. 大阪圏、関西圏の中核をなす交通インフラ 3. 地下鉄事業では、平成15年度以降、単年度黒字を継続的に確保し、公営地下鉄事業者では、全国で唯一、累積欠損金を解消(22年度) 	
	パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 4. ICカードの多機能性を活かした、様々な分野の事業者等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ④-4 ・【増客・増収の推進】 沿線地域の魅力発信、沿線イベント・沿線外イベント・海外へのインバウンドPR
	ポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> 5. 地下鉄駅構内の活用や、未利用地の処分による増収 	<ul style="list-style-type: none"> ④-5 ・【付帯事業収入の確保】 駅ナカ事業の展開、空間利用による収入・広告料収入の確保など
	大阪府	<ul style="list-style-type: none"> 6. 津波対策を充実させる必要がある 7. 労働生産性を向上させる必要がある 8. 地下鉄事業では、新線建設やニーズの多様化に伴うサービス改善施策推進による資本費(支払利息や減価償却費)負担が大きい(平成24年度末の企業債残高は5,717億円を有す) 9. 「鉄道事故等報告規則」により報告を要する鉄道人身障害事故が12件発生、市バスによる運転手の責任事故(人身及び物損)が215件発生(平成24年度末) 10. 重要な地下鉄構造物の約50%が建設後約50年以上経過 11. 地下駅舎115駅中、火災対策の新基準に未適合駅36駅(平成24年度末) 12. バス事業では、営業係数が100以上(赤字)の一般バス系統は103系統中88系統、赤バス29系統はすべて赤字で、抜本的見直しが必要(平成24年度末) 13. お客さま満足度の低いサービスの改善 	<ul style="list-style-type: none"> ①、②、③-6、9、10、11 ・【安全管理体制の充実】 職員の安全参加意識の醸成など ・【施設の安全性強化】 さらなる安全設備の整備など ・【自然災害対策】 災害時における対応訓練など ④、⑤-13 ・【お客さま満足度の向上に向けた継続的な体制づくり】 全局的なCS度向上施策の実施など ・【市営交通ブランドカアップ】 市営交通110周年記念事業の実施 ・【地下鉄施設の等の満足度向上】 清潔感のある駅空間への改善など ・【接客・接遇の向上】 ⑥-7、8、12 【人件費・経費の削減】
	パートナー		
	ポテンシャル		